

2 展覧会実施状況(H28)

(1)信濃美術館

企画展	企画展 1(共催展)	企画展2 (共催展)	企画展 3	企画展 4
展覧会名	ジブリの立体建造物展	東京富士美術館コレクション「巨匠たちの競演 西洋絵画の300年～ヴァン・ダイク、ドラクロワ、モネ、シャガール～」	平木コレクション 生誕220年 歌川広重の世界 東海道五十三次と江戸の四季	「西洋民藝の粋—生活を彩る道具たち—村田コレクションから」
日程	4月16日(土)～6月26日(日) 開催日数 63日間	7月9日(土)～8月28日(日) 開催日数 45日間	9月16日(金)～10月16日(日) 開催日数 27日間	10月27日(木)～12月11日(日) 開催日数 40日間
内容	スタジオジブリは1985年の創立以来、多くのアニメーション作品を発表してきた。作品中にはドラマが起こる舞台として、沢山の「建造物」が登場する。本展覧会では、スタジオジブリの出発点となった「風の谷のナウシカ」から「思い出のマーニー」まで、作品に登場する建造物の背景画や美術ボード、美術設定といった制作資料約450点、代表的な建造物の立体模型11体を展示。「建造物」という観点からスタジオジブリ作品の魅力に迫った。	日本で有数のコレクションを誇る東京富士美術館の西洋絵画コレクション。17世紀イタリア・バロックやオランダ・フランドル絵画、18世紀のフランス・ロココ絵画、フランス革命期とナポレオン時代の絵画、19世紀前半の新古典主義、ロマン主義絵画、19世紀後半のバルビゾン派、印象派を経て20世紀のエコール・ド・パリの時代に至るまでの300年の絵画を紹介した。	江戸時代に庶民の芸術として誕生した浮世絵は、今日でも人気の高い芸術作品である。中でも歌川広重は代表亭な絵師として広く知られ、代表作「東海道五十三次」は、江戸の町でも好評を得て、広重の名を不動のものにした。生誕220年を記念し、広重の風景を「東海道五十三次」、「名所江戸百景」などからご覧いただいた。また、特別出品として、「六十余州名所図会」から信濃など10図を厳選して紹介した。また、イベントとして美術館で初めての落語を開催するなど、江戸の気分を様々な角度からお楽しみいただいた。	私たちの日常の中にも、美しいものが存在している。17～19世紀のヨーロッパで作られたタイルや食器、アイコンなどの調度類は、現代では考えられないほど丹念に作り上げられている。それらは、生活の場をはなれた今でも、作り手と使い手たちの思いがしみこんで、その背景にあった様々な物語まで見えてくるようだ。本展では、村田新蔵氏が生涯をかけて築いたコレクションの中から、西洋の小道具の数々を展覧し、時代を越えて人々の目を楽しませてきた素朴な味わいをお楽しみいただいた。
観覧料金	大人1,200円、大学生1,000円、高校生以下無料 東山魁夷館との共通料金:大人1,500円、大学生1,100円	大人1,200円、大学生1,000円、高校生以下無料 東山魁夷館との共通料金:大人1,500円、大学生1,100円	大人800円、大学生600円、高校生以下無料 東山魁夷館との共通料金:大人1,000円、大学生700円	大人800円、大学生600円、高校生以下無料 東山魁夷館との共通料金:大人1,000円、大学生700円
主催等	(主催)長野県、長野県信濃美術館、テレビ信州 (企画制作協力)スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館 (協力)(公財)竹中大工道具館 (協賛)ア・ファクトリー (後援)長野県教育委員会、長野市、長野市教育委員会、長野県芸術文化協会、長野商工会議所、善光寺、(公財)八十二文化財団、(公財)ながの観光コンベンションビューロー、JR東日本 長野支社、読売新聞長野支社、FM長野	(主催)長野県、長野県信濃美術館、SBC信越放送 (企画協力)東京富士美術館(共催)長野県教育委員会、信濃毎日新聞社 (後援)長野市、長野市教育委員会、長野商工会議所連合会、長野商工会議所、長野県芸術文化協会、善光寺、(公財)八十二文化財団、長野県美術教育研究会、(公財)ながの観光コンベンションビューロー、JR東日本 長野支社FMぜんこうじ	(主催)長野県、長野県信濃美術館、公益財団法人平木浮世絵財団 (企画協力)株式会社アートワン (共催)長野県教育委員会 (後援)長野市、長野市教育委員会、長野県芸術文化協会、長野商工会議所、善光寺、長野県美術教育研究会、(公財)八十二文化財団、(公財)ながの観光コンベンションビューロー、JR東日本長野支社、信濃毎日新聞社、abn長野朝日放送	(主催)長野県 長野県信濃美術館 (共催)長野県教育委員会 (後援)長野市、長野市教育委員会、長野県芸術文化協会、長野商工会議所、善光寺、長野県美術教育研究会、(公財)八十二文化財団、(公財)ながの観光コンベンションビューロー、JR東日本長野支社、信濃毎日新聞社、テレビ信州
イベント	①講演会「ジブリの魅力と建築の接点」 講師:藤森照信氏(建築家・建築史家)、菊池亜希子氏(女優・モデル) 日時:4月16日(土)13:30～15:00 場所:信濃美術館3階講堂 参加人数:100人 ②カオナン撮影会 日時:4月16日(土)、5月21日(土) 各日とも4回実施、各回30分程度 場所:本館ロビー	①講演会「東京富士美術館コレクションでたどる西洋絵画300年」 講師:五木田聡氏(東京富士美術館館長) 日時:7月9日(土)13:30～15:00 場所:信濃美術館3階講堂 参加人数:58人 ②ワークショップ「色で時間をつかまよう」 講師:齋藤春佳氏(画家) 日時:7月9日(土)13:30～15:00 場所:信濃美術館3階講堂 参加人数:36人 ③ベビーカーツアー実施回数:2回 参加人数:11人 ④ギャラリートーク 実施回数:5回 参加人数:107人	①講演会「広重の東海道について」 講師:佐藤光信氏(平木浮世絵財団 常務理事) 日時:9月24日(土)13:30-15:00 場所:信濃美術館3階講堂 参加人数:53人 ②開館50周年特別イベント「信美寄席」 出演:立川談慶氏(落語家・上田市出身) 演目「抜け雀」 日時:10月10日(月・祝)14:00-15:00 場所:信濃美術館3階講堂 参加人数:71人 ③ベビーカーツアー 実施回数:2回 参加人数:10人 ④ギャラリートーク 実施回数:4回 参加人数:73人	①講演会「村田コレクションについて」/講師:尾久彰三氏(元・日本民藝館学芸部長)日時:10月29日(土)13:30～15:00 参加人数:38人 ②おとなのワークショップ (1)「ポピンレースでアクセサリーを作る」日時:11月6日(日) 2回 参加人数:11人 (2)「革のカードケースを作る」/日時:11月20日(日) 2回 参加人数:10人 (3)「竹籠を編む」/日時:12月4日(日) 参加人数:9人 ③ワークショップ「タイル模様塗り絵でコースターを作ろう」/日時:11月3日(木・祝)、23日(水・祝) 参加人数:28人 場所:信濃美術館ロビー ④ベビーカーツアー 実施回数:2回 参加人数:4人 ⑤ギャラリートーク 実施回数:5回 参加人数:31人
入館者	入館者数131,036名(達成率477.3%) 目標入館者数 27,450名	入館者数 19,173名(達成率 98.6%) 目標入館者数20,000名	入館者数 8,256名(達成率122.3%) 目標入館者数6,750名	入館者数 3,715名(達成率46.4%) 目標入館者数8,000名
図録	図録 2,160円、出品目録	図録 1,200円、出品目録	図録 2,376円、出品目録	図録 2,500円、出品目録
予算	負担金 2,620,000円	負担金 2,620,000円	予算 13,705,615円	予算 15,126,219円
担当学芸員	大野織江/松浦千栄子	松井正/木内真由美	松浦千恵子/松井正	瀬尾典昭/木内真由美/松浦千恵子/古館遼

(2)東山魁夷館

区分	常設展1 「画家への決意」	常設展2 「日本画への出発」	常設展3 「ベルリン留学」	常設展4 「風景画家として」	常設展5 「静かな楽しさ」	常設展6 「芸術の世界に年齢はない」
会期	4/9(木)～5/31(火) 開催日数 49日間	6/2(木)～8/2(火) 開催日数 42日間	8月4日(木)～10月4日(火) 開催日数 55日間	10月6日(木)～12月6日(火) 開催日数 54日間	12月8日(木)～平成29年2月7日(火) 開催日数 50日間	2月9日(木)～3月28日(火) 開催日数 53日間
内容	第1期は東山の画家への出発点となった《自画像》や東京美術学校在籍時に書かれた牡丹図など初期の作品に加え、季節に合わせた東山の代表作のひとつである《緑響く》や《花明り 習作》を展示した。	第Ⅱ期では、東京美術学校在籍するかたわら、雑誌『コードモノクニ』などに挿絵なども描いていた東山が、同誌の挿絵として描いた《祭りの夜》、《柿生の里》など若き日に描かれた作品と、《水辺の朝》や《夏入る 習作》など季節に合わせた作品を展示した。	第Ⅲ期では、日本画家としては当時まだ珍しかった欧州留学をした東山が留学先で描いたヨーロッパ風景スケッチを中心に、その後のドイツへの旅で描いたスケッチ、ヨーロッパを取材地とする《倉庫》や《石の窓》などを展示した。また、皇居壁画「朝明けの潮」の原寸大下図を初めて公開した。	第Ⅳ期では、1947年第3回日展で《残照》が特選を受賞し、ようやく画壇に認めらえた東山が風景画家として、本格的に活躍し始めた頃の日展準備作を中心に、代表作《道》や《光昏》の下図・スケッチの他、現在では当館の下絵しか現存しない、ニューヨーク近代美術館の日本建「松風荘」の為に描かれた、障壁画下絵を展示した。	第Ⅴ期では、1962年の北欧旅行を中心に、帰国後、日展に発表した《映象》《雪原譜》などの、習作や下図の他、北欧旅行で描いたスケッチや習作の他、《行く秋》や《夕静寂》などの代表作と、秋から冬の景色を描いた作品を展示した。	第Ⅵ期では、齢90で亡くなる直前まで制作を続けていた東山の、晩年の代表作である唐招提寺御影堂障壁画の関連作品や、スケッチ、習作を中心に、《白馬の森》や《春兆》と、絶筆となった《天星》と新収蔵品である原寸下図を展示した。
イベント	おしゃべりさんぽ 実施回数:4回 参加人数:54名 ベビーカーツアー 実施回数:1回 参加人数:4組8人	おしゃべりさんぽ 実施回数:4回 参加人数:43名 ベビーカーツアー 実施回数:1回 参加人数:6組12人	おしゃべりさんぽ 実施回数:4回 参加人数:43名 ベビーカーツアー 実施回数:1回 参加人数:5組10人	おしゃべりさんぽ 実施回数:4回 参加人数:51名 ベビーカーツアー 実施回数:1回 参加人数:3組6人	おしゃべりさんぽ 実施回数:3回 参加人数:29名 ベビーカーツアー 実施回数:1回 参加人数:1組2人	おしゃべりさんぽ 実施回数:4回 参加人数:1名 ベビーカーツアー 実施回数:1回 参加人数:1名
入場者	総入館者数 26,430名	総入館者数 15,095名	総入館者数 16,288名	総入館者数 12,521名	総入館者数 4,251名	総入館者数 1名
予算、担当	東山魁夷館常設展全体で 22,167,114円 担当:松浦千栄子/大野織江					